

サクランボ特報 No.2

R5. 3.30 No.2
J A 中野市営農センター
J A 中野市サクランボ部会

2回分の防除を掲載しています

生育は、平年よりも7日程度進んでいると思われます。（平岡地区 佐藤錦 開花予想：4月12日頃）

また本年は、凍霜害が心配されますので、凍霜害対策資材の準備をお願い致します。

定期防除・管理作業は遅れないよう計画的に実施して下さい。また、乾燥状態が続く場合は灌水を実施して下さい。

第2回 定期散布

散布時期	開花直前（散布日の目安：4月6日～12日）	散布日	4月	日
散布薬剤	水 100ℓ当り 展着剤（ハイテンパワー） 10ml オンリーワンフロアブル 50ml（収穫前日まで、3回以内）	散布量		ℓ
散布量	10アール当り 350ℓ			
混用順	水 ⇒ 展着剤 ⇒ オンリーワンフロアブル			
対象病害虫	灰星病、炭そ病、黒斑病、褐色せん孔病、			

【注意事項】

- ① ハマキムシ類 発生園は、フェニックスフロアブルの4,000倍（収穫前日まで、2回以内）を加用する。

第3回 定期散布

散布時期	落花直後（散布の目安：第2回定期散布から14日後）	散布日	4月	日
散布薬剤	水 100ℓ当り 展着剤（ハイテンパワー） 10ml サムコルフロアブル10 40ml（収穫前日まで、3回以内） ベルコートフロアブル 50ml（収穫7日前まで、3回以内）	散布量		ℓ
散布量	10アール当り 400ℓ			
混用順	水 ⇒ 展着剤 ⇒ サムコル ⇒ ベルコートフロアブル			
対象病害虫	ケムシ類、ハマキムシ類、オウトウショウジョウバエ、コスカシバ、灰星病、			

【注意事項】

- ① 訪花昆虫保護のため、早朝に散布を実施する。（ミツバチを設置している場合は、引き上げ後に散布する）
- ② ベルコートフロアブルは、5℃以下では増粘あるいは固化により、容器から取り出しにくくなる場合がありますので、固化の場合は、散布前日までに50℃以上の湯に容器の肩まで浸し、1時間以上経過した後、室温まで放置し、よく振ってから使用してください。

次ページもご覧ください

●凍霜害対策について

3月下旬の花芽が膨らみ始めた頃から開花前まで、低温遭遇（-2.2℃以下で30分以上）による花器障害が心配されますので、防霜ファンの稼働、園内の保温（燃焼資材、加温設備のある園地では加温機の使用等）により対策を講じて下さい。*開花時に花器異常（貧弱花、めしべ欠落）が確認された場合。

- (1) 開花状況をよく観察し、健全な花を中心に授粉を行ない結実確保に努めて下さい。
- (2) 枝によって着果量が不足する場合は、樹全体で着果量を確保して下さい。

凍霜害対策講習会開催について

標記の件につきまして、下記により凍霜害対策講習会を開催しますので、お誘いあわせの上、ご参加をお願いします。

開催日	集合時間	集合場所	対象者	内容
4月 5日(水)	11時00分	南部共選所	全部会員	① 燃焼法の実演
4月 5日(水)	13時30分	ぶどうセンター		② 散布資材の紹介
4月 17日(月)	11時00分	南部共選所	全部会員	① 燃焼法の実演
4月 17日(月)	13時30分	ぶどうセンター		② 散布資材の紹介

●訪花昆虫の導入について

雨除けハウスで、訪花昆虫を導入する場合は、ハウスの屋根もしくはサイド面の網・ビニールを必ず開けておくようにして下さい。（訪花昆虫保護のため）

●葉面散布について

樹勢衰弱や葉色が薄い場合は、葉面散布を実施し、健全な葉の育成と光合成、初期肥大促進に努めて下さい。

*葉面散布使用例・・・定期散布時に農薬と混用が可能です。（混用は最後です）

資材名	成分量	目的	倍率	使用時期	規格、参考価格	1000 散布 単価
ビビットグリーン	水溶性苦土 4%	苦土補給 葉の健全化 光合成促進	500 倍	第3～4回目の 定期散布時に混用	1.2kg 1,505 円 5kg 4,710 円	251 円 188 円
液体硫酸マンガ	水溶性マンガ 13.5%	マンガ補給	200 倍	第3～4回目の 定期散布時に混用	1kg 1,160 円	580 円
グリーンデイズ	水溶性苦土 16% 水溶性マンガ 9.0% 水溶性ほう素 2.5%	苦土等補給 葉の健全化 品質向上他	1,000 倍	第3～4回目の 定期散布時に混用	1kg 1,560 円	156 円

●かん水

* 記録的な暖冬により、土壌が乾燥傾向です。必要に応じてかん水を実施して下さい。

- ① 時期：発芽期～開花期、落花直後の肥大初期。
- ② かん水量：5～20^リ程度。
- ③ 注意事項：土壌水分を確認の上、かん水量を調整する。特に開花期は高湿による花腐れに注意。
果実の地色が抜け始めると裂果の恐れがあるため、かん水量を控えめにする。
結実量が少ない樹や強樹勢の場合は、裂果しやすいため、かん水量を控えめにする。

次回特報発行予定：5月上旬頃
内容：第4回定期散布、今後の管理作業